

平成21年度 第2回  
大阪府・大阪市経済動向報告会  
第1部：最近の大阪経済の動向 資料  
『混沌とした経済情勢の捉え方』

平成21年7月23日

財団法人大阪市都市型産業振興センター  
経済調査室長 徳田 裕平



【本日の話題】

- ☆ この2年の景気動向を振り返る
- ☆ 季節変動を踏まえて大阪経済は下げ止まり／底打ち？
- ☆ 景況調査項目のストック的(累積型)指標に着目すべし
- ☆ 回避すべき不況フェーズとそのための基本的方向

1 この2年の景気動向を振り返る

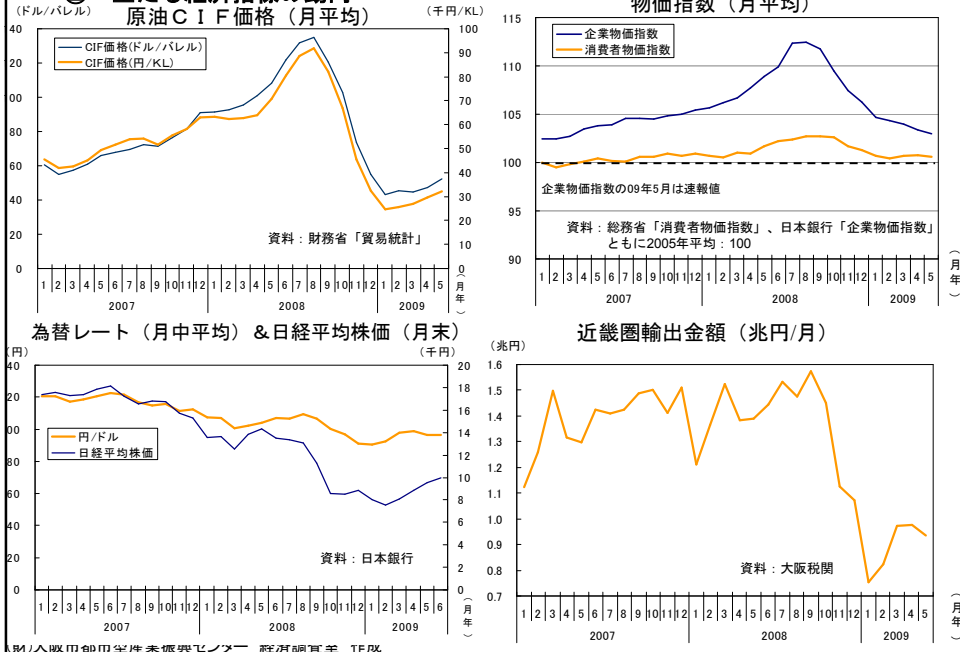
① 「大阪市景気観測調査」の業況総括判断の推移 ⇒ 画時代的認識の必要性

<p>「月例経済報告」 内閣府</p> <p>19/10 } このころ 19/11 } 一部に弱さ、 回復している</p> <p>19/12 } 一部に弱さ、 20/01 } 回復している 20/02 } 回復が緩やか 20/03 } 回復は足踏 20/04 } み状態 20/05 }</p> <p>20/06 } 足踏み状態 20/07 } 一部に弱い 動き</p> <p>20/08 } 弱含み 20/09 }</p> <p>20/10 } 弱まっている 20/11 } 弱まっている 下押し圧力が急速</p> <p>20/12 } 悪化</p> <p>21/01 } 急速に悪化 21/02 } 急速な悪化 21/03 } 厳しい状況 21/04 }</p> <p>21/05 } 厳しい状況 悪化のテンポ緩やか 21/06 } 厳しい状況 一部持ち直しの動き 21/07 } 厳しい状況 持ち直しの動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>19年10～12月期調査 「年末需要で業況は盛り返すも、『隔り場』の様相が強まる」 Keyword: 内需の減退感の強まりなどにより、前年比では規模・業種を問わず悪化 製・商品単価への価格転嫁が多少とも進展 黒字企業割合はやや改善するも、利益水準では依然厳しい</li> <li>20年1～3月期調査 「経済環境急変に伴う新たな均衡へ向けた調整過程が進行」 Keyword: 前期比の業況判断は大幅下落 平成15年以来約5年ぶりの低水準 一気に進んだドル安・円高とそれに起因する株価急落、原油価格急騰など国内外経済の変調</li> <li>20年4～6月期調査 「コストプッシュにより一部の企業で価格転嫁が進展」 Keyword: 数年来の原油価格高騰が原材料全般の価格に波及 全体的に需要拡大に伴う景況改善ではない 前期に生じた円の急騰、株安等による市場・金融不安は緩和</li> <li>20年7～9月期調査 「内外需の弱さと原油価格の反落で方向感が定まらない不安定状態」 Keyword: 製・商品単価への転嫁も様子見 業種による違いが先鋭化 赤字企業の割合の方が多くなる傾向 資金繰りが一気に厳しさを増している</li> <li>20年10～12月期調査 「需要の急激な縮退により大企業中心に業況等が急降下」 Keyword: リーマンブラザーズの経営破綻 海外はもとより国内の需要までが急激に縮退 特に中小企業で資金繰りが厳しい 雇用面では不足感が解消</li> <li>21年1～3月期調査 「景気悪化は業種・規模を問わず急拡大」 Keyword: 調査開始以降の7年間で最低の水準 製造業のポイントの低下が顕著 出荷・売上高、商品単価、営業利益の各DIは低下、原材料価格DIは特に低下</li> <li>21年4～6月期調査 「景気は底入れの兆候が見られるものの、依然厳しい水準」 Keyword: 前期よりも上昇し、底入れの兆候が見られる 営業利益判断の下落傾向には歯止めからず 設備投資は消極姿勢がより鮮明化 資金繰りも大企業以外は悪化</li> </ul>
--	---

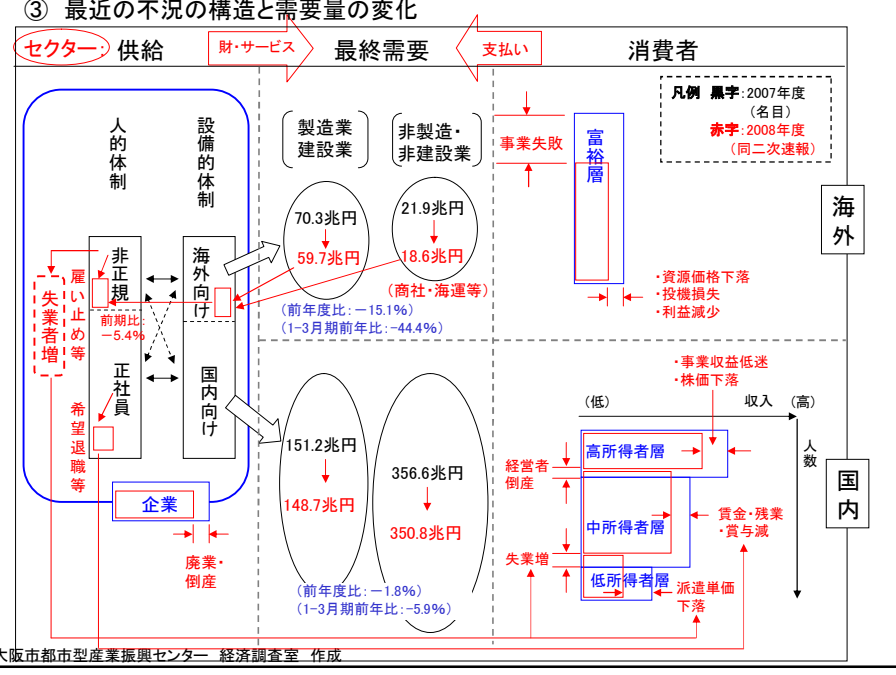
財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

1 この2年の景気動向を振り返る

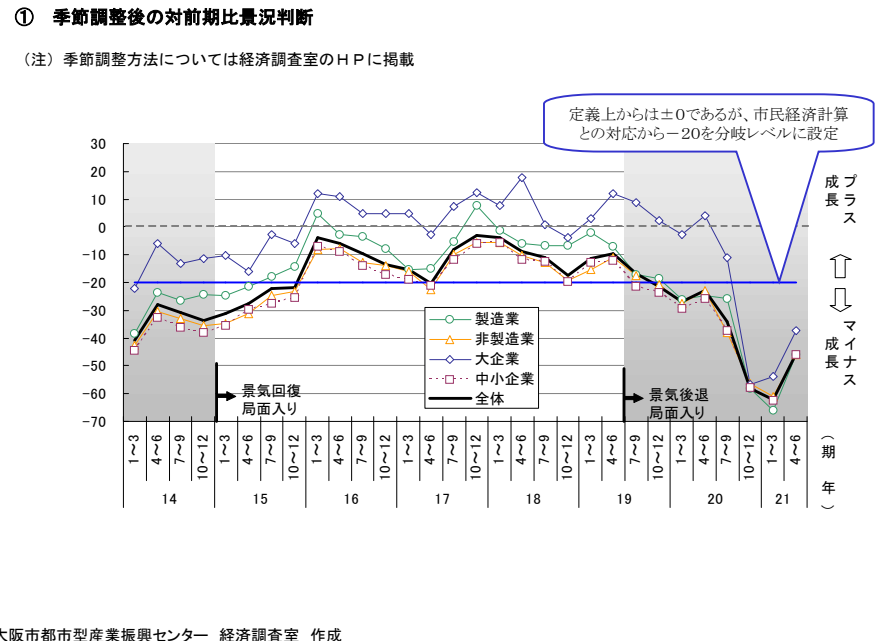
② 主たる経済指標の動向



## 1 この2年の景気動向を振り返る



## 2 季節変動を踏まえて大阪経済は下げ止まり/底打ち?

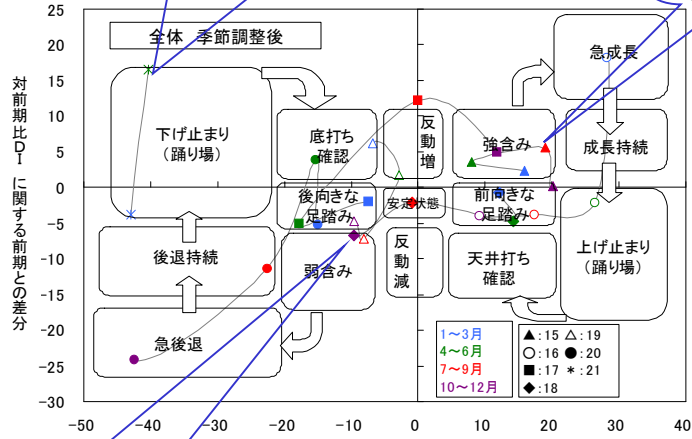


## 2 季節変動を踏まえて大阪経済は下げ止まり／底打ち？

### ② 景気動向クロス判定による現状評価

③ H21・II期は2期続いて下げ止まり状態に位置しているが、前年比では-40ポイント超の状況が続いており、底打ち確認とは断定できず

① H15は強含み状態が持続しているため、回復局面入りと判断

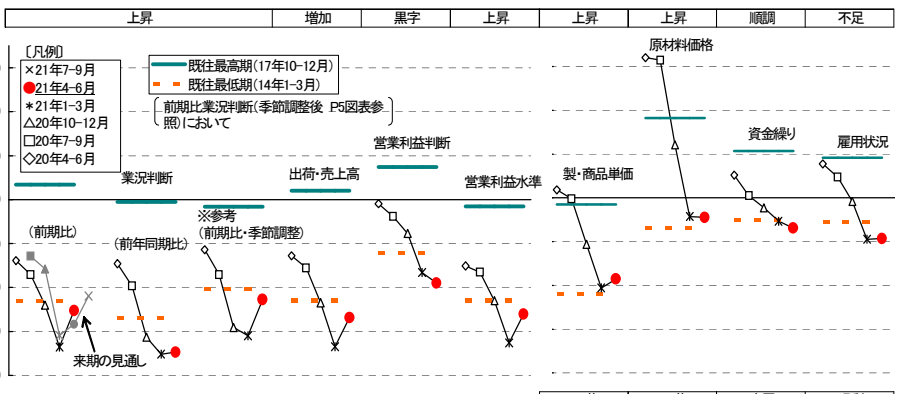


② H19・III期より弱含み状態になり、その後も前年比で-10ポイント超の状況が続くため後退局面入りと判断

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

## 3 景況調査項目のストック的(累積型)指標に着目すべし

### 主な項目のDII (平成20年4-6月~21年4-6月)



業況や売上はITバブル崩壊時の過去最低を下回る水準で低迷  
 単価を下げて不況で数量が伸び悩み、営業利益は赤字が続く状況が深刻化  
 原材料価格が反転急落し競争激化もあって単価は過去最低水準付近で低迷  
 キャッシュ不足が深刻化するも金融機関は追加融資には慎重  
 厳しい受注状況で過剰感が高まるも人員削減は進まず

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

## 4 回避すべき不況フェーズとそのための基本的方向

### ① これまでの経済情勢のフェーズと今後の最悪／最良フェーズのイメージ

#### フェーズⅠ：金融バブル崩壊の兆候現れるも大事に至らない潜伏期（19年8月～20年2月）

契機的事象：仏BNPパリバがサブプライム問題で3ファンドを一時凍結  
日本経済への影響：19年末にかけ欧米の外需に依存していた大企業の一部が変調をきたすも、国内はおおむね平静

#### フェーズⅡ：金融バブル崩壊が露呈し、投機マネーが世界を翻弄した激震期（20年3月～20年8月）

契機的事象：米ベアスターズ破綻寸前でJPモルガンが救済買収  
日本経済への影響：一気にドル安・円高が進んだため、株価も急落。投機マネーが原油価格急騰を惹起し、原材料価格などが軒並み暴騰し、国内外経済に大混乱をもたらして世界経済が縮こまる。

#### フェーズⅢ：外需依存型の日本の実体経済が急縮し、製造業が狼狽した最悪期（20年9月～21年4月）

契機的事象：リーマンブラザーズ証券の破綻  
日本経済への影響：「蜂に刺された程度」（与謝野大臣）という甘い認識のもと、経済対策が後手にまわる。派遣社員の解雇・雇い止みが社会問題化。一時、円高は87円、株価は7千円近辺まで急変。

#### フェーズⅣ：緊急経済対策の効果が徐々に現れるも、展望が不透明な底入れ期（21年5月～21年7月）

契機的事象：定額給付金など56兆円の事業規模の追加経済対策 地方選挙における政府自民党の敗戦続き⇒解散  
日本経済への影響：ETC車の地方高速道路料金の土日：1千円化による地方経済の消費拡大（他方、フェリー苦戦）省エネ家電、低燃費車への買い替え促進による消費拡大効果（需要の先喰いと批判もあり）

#### 回避すべきフェーズⅤ：有効需要が見出せず、倒産増、失業者増に陥る不況スパイラル期

日本経済への影響：企業業績低迷、家計収入減少による税収悪化 雇用調整金・生活保護など社会保障費の肥大化 自殺・犯罪増加に伴う負の出費増・社会的損失増 株価や地価下落による資産デフレ など

#### 目指すべきフェーズⅤ：潜在需要に応える新たな社会構築に向けた革新的スパイラル期

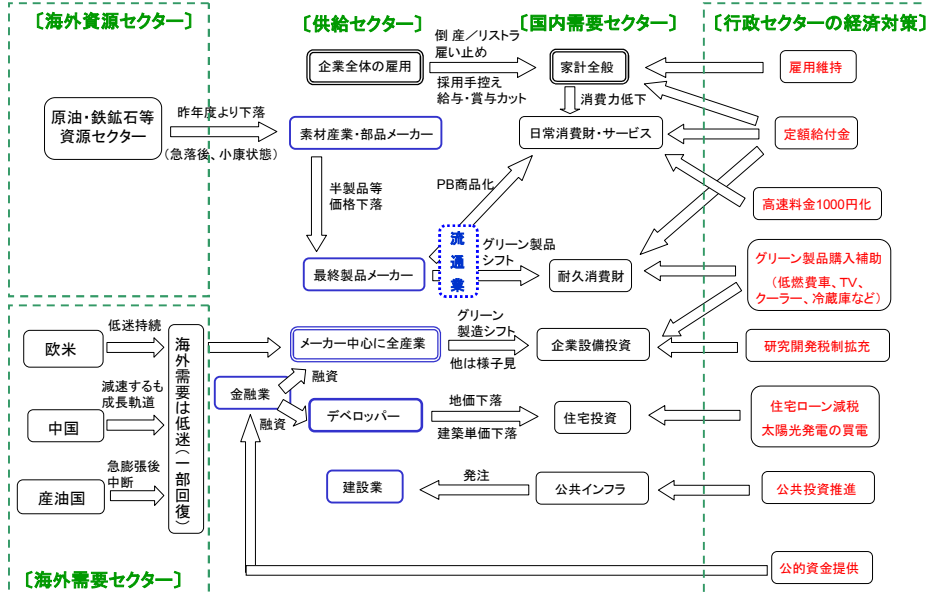
契機的事象：改正臓器移植法の成立にみるような規制打破・ブレークスルー分野の拡大 低炭素“革命”推進  
日本経済への影響：新規産業創出による景気回復と雇用機会創出 長期的な経済・社会構造の変革 など

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

8

## 4 回避すべき不況フェーズとそのための基本的方向

### ② 最近の経済情勢と政府の追加経済対策



(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

9

#### 4 回避すべき不況フェーズとそのための基本的方向

##### ③ 『革新的スパイラル期』を推進するために必要な姿勢

成熟不況下で「草食系男子」は生き残れるか？ **変革** 「肉食系社員」を多く養成することが組織存続のために必要！

